

加藤清正の実像

〈1〉誕生

加藤清正は、永禄5年(1562)6月24日、加藤清忠の二男として尾張国愛知郡中村(現在の愛知県名古屋市中村区)に生まれたとされています。幼名は夜叉若、元服後は虎之介清正。母の名前は伊都。「美濃国諸家系譜」の「加藤清正系図」を見ると、牛之助という兄がいたようですが、ほとんど知られていないため早くに亡くなったのでしょう。

また「清正記」※に収められている「清正系図」によれば、もともと加藤氏は藤原鎌足を初代とする藤原氏の流れを汲む家柄で、鎌足から数えて42代目にあたる正家の時に京都から美濃国(現在の岐阜県)加藤庄に移り住んだことにより、加藤姓を名乗り始めたと言われています。そして、正家から数えて10代目にあたる頼方が尾張国愛知郡中村に移り、この頼方の孫が清正の祖父にあたる清信です。祖父清信や父清忠の生没年や経歴については、はっきりとしたことは分かっていません。一説には、祖父清信は斎藤道三に、父清忠は織田信長に仕えたとも言われていますが、仮に事実だったとしてもどのような身分だったかは定かではありません。その後、父清忠は足を悪くしたため武士を辞めて清兵衛という鍛冶のもとで修行し、そこで出会った清兵衛の娘伊都和夫婦になったと言われています。

しかし、これらの伝記や系図は、後世に作成されているため年代など所々つじつまが合わない箇所があり、記載されている内容の真偽については疑問が残ります。特に、初代藤原鎌足から42代目正家あたりまでの系図は、加藤氏の由緒を粉飾するために創作されたと考えて間違いはないでしょう。つまり、加藤氏の素性や由緒、清正の幼少期に関しては、信頼できる確かな史料が残されていないため、不明な点が多いと言わざるを得ません。

このように多くの謎に包まれた清正の幼少期ですが、当時織田信長の家臣となっていた同郷の羽柴藤吉郎秀吉(後の豊



▲清正生誕地
(名古屋市中村区妙行寺)



臣秀吉)に幼くして仕え始めたことは確かなようです。一般的には、清正の母伊都和秀吉の母ながが従姉妹の間柄であった縁で秀吉に仕えたと言われていますが、これを裏付ける当時の史料はなく、鵜呑みにはできません。また一説では、伊都和秀吉の妻ねが縁戚関係だったとも言われていますが、これも決め手を欠きます。

幼くして父を亡くした清正は、母に連れられて当時近江国長浜(現在の滋賀県長浜市)にいた秀吉のもとを訪れたと言われています。これについて「加藤家伝」という伝記には「虎之助九歳。母二従テ江州長浜二到リ」と記されています。清正9歳は元亀元年(1570)にあたります。この頃秀吉は、長浜(当時は今浜)から少し離れた横山城や小谷城に在城しているため、9歳の清正が身を寄せたのは小谷城だったかもしれません。また、秀吉が今浜に本拠を移し、長浜と改めたのは3年後の天正元年(1573)頃ですので、長浜時代の秀吉に仕え始めたとするならば、清正が12歳以降の頃だったと考えられます。

いずれにしても、清正が10代の少年期を秀吉のもとで過ごしたことは間違いなく、これによって秀吉配下の武将として立身出世の道がスタートします。

※「清正記」…古橋又玄がまとめた清正の一代記。清正の死後、約50年経った1600年代の中頃に書かれた。

このコーナーは、大浪和弥さん(元熊本博物館学芸員)が執筆しています。